



11月 保育所だより

令和4年10月31日
桑折町醸芳保育所

全国の新型コロナウイルス感染者数が9月から減少傾向でしたが、10月に入ると下げ止まりの様子が見られました。福島県でも、感染者数が前週の同じ曜日とほぼ同数だったり、やや上回ったりすることもあり、なかなか2桁まで減少しませんでした。更に、ここ一週間ではリバウンドの傾向も出ています。私たちの周りにおいても、陽性者が突然発生したり、経路がよく分からなかったりと安心できる状況にはありません。報道によると、今年はインフルエンザの流行とコロナの第八波が同時に来るのではないかと言う専門家もいます。とにかく、まだまだ不確かな状態であることは間違いありません。保育所では9月から10月中旬にかけて、新型コロナウイルス感染症とともに、手足口病や、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナと高熱を発する感染症がクラス毎に流行しました。体の中に様々な病気に対する抵抗力（抗体数）が少ないためとマスクをつける等の感染対策を行えないのが原因であると考えられます。これから益々朝夕の寒さが厳しくなり、体調を崩すお子さんも出てくることと考えられますので、今後もお子様への体調管理へのご協力、よろしくお願ひいたします。

さて、寒さとともに保育所では所庭の木々も色づいて、日に日に秋の深まりを感じるようになりました。子どもたちは、どんぐりを拾いに散歩に出かけるなど、秋ならではの遊びを楽しんでいます。また、28日（金曜日）に遊戯室で「ハロウィンパーティー」を行いました。おばけ釣りや輪投げ、おばけルームやお菓子の家、変身コーナーで楽しみました。子どもたちの活動の様子は、本日アップのホームページでご紹介しましたのでご覧ください。

<今月の保育の目標>

0歳児

- 戸外で秋の自然や身近な物に触れて遊ぶ。
- 保育者に見守られながら、好きな遊びを楽しむ。

1歳児

- 保育者に見守られながら、好きな遊びを十分に楽しむ。
- 戸外遊びや散歩を通して、体を動かしたり、秋の自然に触れたりすることを楽しむ。
- 身の回りのことを自分でしようとする意欲を大切にすることで、満足感を味わわせる。

2歳児

- どんぐりや落ち葉などに関心を持ち、秋の自然物を使った遊びを楽しむ。
- 保育者や友達とごっこ遊びなどを楽しみながら、言葉のやりとりを広げていく。
- 自分の好きな絵本を見たり、保育者に絵本を読んでもらったりすることを楽しむ。



<11月の行事予定>

- 8日（火）避難訓練（消防車が来ます）
- 22日（火）醸芳幼稚園との交流会（来年度入園児）
- 24日（木）誕生会

<12月の主な予定>

- 6日 たのしみ会
（エプロンさん鑑賞さくら・ひまわり組）
- 14日 エプロンさん鑑賞
（ゆり～たまご組）
- 21日 交通教室（幼稚園へ）
- 22日 誕生会
- 26日 避難訓練
- 28日 保育納め

今月の合同保育室は、ちゅういっぶ組です。



< 保育所からのお知らせ・お願い >

【内科健診、歯科健診、尿検査結果】

内科健診・・・医師の所見があったお子さんについては、個別にお知らせしました。

それ以外のお子さんは、異常ありませんでした。

歯科健診・・・お配りした歯科健康診断結果書のとおりです。

尿検査・・・陽性のお子さんには、個別にお知らせしました。

それ以外のお子さんは、異常ありませんでした。

～お忙しいところご協力ありがとうございました～



【来年度の入所申込みについて】

1 1月中旬に令和5年度醸芳保育所入所申込書を配布します。来年度も入所を希望される方は、申込み期間内（1 1月下旬まで）に申込書を保育所へ提出してください。

また、来年度醸芳幼稚園へ入園予定の入所児には、醸芳幼稚園入園申込書を配布します。申込書の提出先は、醸芳幼稚園になります。

【上履きの準備について】

ひまわり組、さくら組のお子さんは、夏場利用しなかった上履きを1 1月から使用しますので、持ってきてください。

【ジャンパーのタグについて】

ジャンパーには、襟元（タグのあたり）に紐をつけていただくようお願いいたします。特に1歳児以上のクラスでは、自分で廊下のフックに掛けます。こどもが掛けられる紐の長さにしてください。

< クラスより >

たまご組

いつも散歩や戸外遊びをしている保育所と幼稚園の間の道には、落ち葉がたくさん見られるようになりました。赤、黄、オレンジ、茶色の葉が、あちらこちらに落ちているので見つけては、そっと摘まんで見せてくれたり、側溝の網の中に「ぽとん」と落としたりして楽しんでいます。

落ち葉もしっとりしていたり、カサカサしていたり、葉の先がチクチクしていたりしているので、触感も楽しめるように「カサカサだね。」「チクチクしているよ。」

など声を掛けて遊んでいます。

少しずつ、寒い季節となっていきますが、日差しが暖かな日は、戸外遊びをして、秋の自然に触れて遊んでいきたいと思います。



ちゅうりっぷ組

10月は、天気の良い日が続き、陣屋の杜公園や種徳公園、醸芳小学校の体育館前などに散歩に行きました。階段の上り下りをしたり、スロープを歩いたり、と平坦ではない道も上手に歩けるようになってきました。

だんだんと、寒さが増してきますが、体調を崩さずに元気に遊べるといいなと思います。

【←醸芳小学校体育館前の階段】

すみれ組

10月は、種徳公園や陣屋の杜公園、そして、おやつを持ってのふれあい公園など、たくさん散歩をしました。みんな順番に手をつないで歩いていたので、歩き方が上手になってきましたよ。公園では、どんぐりや松ぼっくりを見つけて喜んだり、トンボを見ると「めんめ」「(ト)ンボ」と言って教えてくれたり、秋の自然に触れています。

今月も天候の良い日は、散歩を楽しみたいです。11月から進級で7名のお友達が仲間入りしたので、早く慣れるよう、スキンシップをたくさんとっていきたいです。



【↑どんぐりに興味津々】

ゆい組



【↑旧桑折分庁舎でどんぐり拾い】

天候の良い日が多く、たくさん散歩にでかけることができました。どんぐりを拾ったり、バッタを観察したり、秋の自然に触れながら楽しむことができました。どんぐりなどを見つけると「あった!」「あー!」「どんぐり!」「大きいね」などその子なりの声や言葉で気づいたことを一生懸命伝えてくれました。どんぐり拾いでは、両手に抱えきれないくらい拾ったり、どんぐりの帽子ばかり見つけて拾ったり、ぴかぴかに輝くものだけを拾ったりと、拾ったどんぐりからもその子なりの発見を感じることができましたよ。

11月も散歩に出かけ、秋の自然と触れ合っていきたいと思います。また、拾ったどんぐりで楽しい遊びも考えていきたいと思います。

ひまわり組

天候の良い日には、種徳公園や法圓寺、幼稚園、遠くはふれあい公園まで散歩に出かけました。種徳公園では、小学生のお兄さんやお姉さんたちと一緒に触れ合ったり、幼稚園では運動会の様子を見たりポタピータワー(固定遊具)で遊んだりして楽しむことができました。ふれあい公園では広い芝の上をかけっこして楽しみました。11月も天候の良い日は、たくさん戶外遊びやお散歩に出掛けたいと思っています。



【↑ふれあい公園で先生とかけっこ】

さくら組

正しいスプーンの持ち方ができるようになってきた子ども達。給食の時間になると「先生、見て～！！」と上手に持てるところを見せてくれます。また、食後には“ブクブクうがい”を始めました。慣れてきたら“ガラガラうがい”もやってみたいと思っています。

絵本の、『三匹のこぶた』のお話が大好きなさくら組さん。保育者がおおかみのお面をかぶって登場すると「キャ～！」「にげろ～！」と大喜びで逃げ回っていました。子ども達も、こぶたのお面を作ってかぶり、「まけないぞ！」と、おおかみとの対決！？を楽しんでいました。他にも、ハロウィンに関する活動や、お散歩など、この時期ならではの遊びを、おもいきり楽しむようにしていきたいと思っています。



家庭生活ポイント 「生活リズム」「あいさつ」「読書」・・・より

幼児期のスマホ利用による心身の影響

0歳児からスマホを見ている

近年、乳児の頃から子どもにスマートフォンを見せる親が急増しています。我々の調査では、0歳児ですでに34.9%の子がスマホに触れているという結果がでました。つい先日、娘が1歳半になる孫を連れて家に遊びに来たのですが、その子を外食に連れていった時や電車に乗せた時、暴れるわ、わめくわで大変でした。仕方なくスマホで動画を見せると、食い入るように見入ってピタリと静かになるのです。「はい。おしまい」などと言おうものなら、見せるまで泣き叫ぶのです。世の親御さん方も皆、こんな状態なのかと納得しました。

スマホを見せることへの影響

乳幼児段階でスマホを見せることの影響について、学者や研究者がさまざまな意見を述べていますが、その中で、視力の低下と運動不足については、悪影響が確実視されています。スマホへの接触頻度が高くなると、乳幼児であっても「スマホ依存傾向」が見られます。親の依存傾向が強いと子どもも依存傾向が強くなるという、統計的に有意な相関関係が示されました。一度、スマホのおもしろさを知ると、子どももスマホを見せろとせがむようになり、親もついつい子どもの要求に負けてしまうのです。

スマホ依存を防ぐために

6歳頃までは、できるだけスマホに接触させない方がベターです。しかし、現実的には、子どもをあやしたり、外でおとなしくさせたりするために、スマホの動画などを見せざるを得ないのが実情です。そうした中で、子どもをスマホ依存から守るために、最低限すべきことがらがあると思います。まず、スマホに触らせたとしても、ずるずるといつまでも続けて見せず、時間の区切りをつけること。何分、という基準はありませんが、せいぜい5分です。たとえ泣きわめいても5分程度たったら、子どもからスマホを取り上げましょう。外では難しいかもしれませんが、家で訓練していきましょう。やがて子どもはそういうものだと諦めるようになります。

面倒でも保護者の努力が必要です。何より、保護者自身がスマホから離れる時間をつくる必要があります。

出典：ほけんニュース第463号 東京女子大学 教授 橋元良明